



2011. 3. 27
No.38



結
y u i



東北地方をはじめ、関東各地、茨城県内で被害に遭われた皆様に、
心よりお見舞い申し上げます。

東北・関東太平洋沿岸を襲った巨大地震、そして福島第一原発事故で起こった炉心溶融と放射性物質の放出は、私たちの生活に甚大な影響を与えています。この未曾有の大災害を乗り越え、これからの日本のあり方を考えていくために、憲法を生かし、命と平和を守ることの重要性を改めて確認したいと思います。

一人ひとりができることを通して、お互いに励ましあい、助けあって、被災者の方々を支援していきましょう。

雨宮処凜さんインタビュー

今号では、9条の輪を広げるための活動として、若い世代との交流を特集します。

9条運動の中でも若い世代の代表的存在、雨宮処凜さんへのインタビューをつくば周辺の若い皆さんと企画。2月27日土浦で行なわれたトークイベントの後、お話しすることができました。



雨宮処凜(あまみや・かりん): 1975年北海道生まれ。作家・活動家。2000年に自伝的エッセイ『生き地獄天国』でデビュー。新自由主義のもと、不安定さを強いられる人々「プレカリアート」問題に取り組む。ウェブサイト[マガジン9条]に「雨宮処凜がゆく!」を連載中。「反貧困ネットワーク」副代表、「週刊金曜日」編集委員。著書『生きさせろ! 難民化する若者たち』『脱貧困の経済学』など

インタビューの皆さん



Iさん: 26歳
女性、社会人
つくば市在住



Nさん: 22歳
女性、学生
常総市在住



Sさん: 22歳
女性、学生
鉾田市在住



Hさん: 26歳
女性、社会人
つくば市在住



Kさん: 28歳
男性、学生
つくば市在住

右翼団体での2年間

Q: 雨宮さんは変わった経歴で有名ですが、右翼団体にいらした経緯と、どうしてそこから平和の運動に転身されたのでしょうか?

A: 私個人、学校でのいじめやリストカット、美大受験の失敗など、漠然とした生きにくさをずっと抱えてきました。何か生きていく助けになればと左翼、右翼と呼ばれている団体の集会に行ってみて、左翼の話は最初から最後まで全く意味がわからなかったんです。言葉が難しくて。で右翼の話はよくわかった。「世の中がこんな風になったのは、戦後の日本のあり方が悪い!」って、初めて「自分のせいではない」と言われてホッとしたんです。それでリストカットがやめられました。自分の居場所はここだ、と思い2年間いましたが、いろいろ突き詰めて考えていくと、やっぱり違ふと。ドキュメンタリー映画に出たことで自分を見直すことになったと思います。

プレカリアートとの出会い

Q: トークイベントでも話されていましたが、「プレカリアート」(不安定な状態を強いられる人々)との出会いは?

A: 作家としてのテーマは最初個人の問題でした。リスクや自殺、生きにくさの問題ですね。その頃50人のイベントをすると、2年後には5人、1割が亡くなっていくという状況が続いていました。自己肯定できず自分を責めて、最終的に亡くなっていく同世代の若者たちの問題は、その数の多さから、個人レベルの問題ではないんじゃないか、という気になったんです。個別の事情をそれぞれが抱えているようで、若者の死には共通点もありました。不安定な生活を強いられるという経済的な問題です。

プレカリアートという言葉に出会ったのはその頃で、1995年に出された日経連の報告書というものがあって、3タイプの雇用のあり方の中で雇用柔軟



型グループが打ち出され、派遣型労働の原点となっていることも知りました。非正規、パート、アルバイトしか職がなく、時給労働では自活するのが困難とい

う社会的な立場の悪化は、自分のせいだけではない、ということがわかったんです。個人的な生きづらさには社会的背景がある、ということ、それに文句を言いたいというのが私の原点です。

生きにくい社会、生きやすい社会

Q：生きにくい社会を何とかしたいというのが雨宮さんの活動の根幹のように感じますが、どういう社会を生きやすいと考えていますか？ これまでにそういう社会は存在したのでしょうか？

A：迷惑を掛け合える社会ですかね。どんなどうしようもない人でも、ダメな人でも普通に生きられる社会、迷惑を掛けやすいってことかな。

まずその人を肯定することです。無条件に生存の肯定をすることが前提ですね。それが生きやすさにつながるんだと思います。

今の生きづらさとは何かと考えると、私は90年代に生きづらさを書いている時には、豊かだけど生きづらいという社会がありましたね。世界には飢え死にしている人もいればスラム街に住んでいる子どもたちもいるのに、私たちは豊かなのに生きづらい、という前提で書いていました。

2000年代に入って生きづらい上に貧乏だと気づいた。社会的にも切り詰めて激安競争をしている中で、金に余裕が無いと心にも余裕がなくなるということを社会全体でやっている状況があった。つまりそのようなものがダブルで押し寄せてきたというのが、「きつい」という正体かなと思いますね。

これまで生きやすい時代というのは無かったかもしれない。しかし、現在の時代は生きづらい状況であるから、何とか生きやすい方向に向かおうという意識が大切じゃないかなと思います。

活動は自分のために

Q：雨宮さんのバイタリティのモチベーションについてお聞きしたいのですが。

A：続けようなどは、あんまり思ってないですからね。こんな運動は、本来は無くていいと思うし。無い方がいい社会であるのは決まっているし。でもそれがなかなか解決していかないから言うしかないというか、自分のためにやっているというのが一番大きいですね。

自分がこういう社会を嫌だなというか、自分とし

て納得いかないという感じです。あんまり人のためとか思うと、つらくなっちゃうと思いますよ。

迷惑を掛けられれば掛けられるほど、助けたぶん助けてもらうつもりでいますので、自分のセイフティネットがどんどん分厚くなっていく、その為にやっているとも言えます。自分が楽しくて、二次被害的に人の役にも立てばいいんじゃないかな、なんて感じですかね。

格差、貧困と平和

Q：格差と貧困や生きづらさ社会等の問題と平和の問題についても言及されていますが、雨宮さんの中では、どのように結びついていますか？

A：戦争って究極の貧困ビジネスという側面があるでしょう。戦場には大量に貧乏人がいますよね、必要とされちゃうというか。それって命ごとの使い捨てですよ。

フリージャーナリストの安田純平さんに取材したことがあって、イラクで人質になったのですが、実はイラク戦争が終わってから戦場の出稼ぎ労働者としてイラクで働いているんです。1年半ほど米軍の料理人として行ってまして、そこに集まっている人は世界の最貧国の出稼ぎの人と聞きました。死んでもカウントされないし保証も出ない、そういう風に戦争は成り立っているんだなと思うと、貧困ともつながる問題ですよ。

楽しむことが大事

Q：多くの人の無関心に対して、どう知らせて行こうと思いますか？

A：楽しさを重視していますね。こういう話は暗くしようと思えば暗くなって辛過ぎてしまいますよね。それでは聞いてもらえないし、救いにもならないと思います。それで人が集まる空間をつくらないといけないと思います。楽しいオーラが出ているところには人が集まってきますので。不真面目だといわれても全然いいと思います。まじめにしてしまっただけで入って行きづらくしてしまうよりは、まずは楽しむのがいいと思います。

様々な国の人たちとも、一貧乏人同士として出会う、友達を増やしていけばいいんだと思います。



*今回の企画にご協力頂いた皆さん、ありがとうございました。

雨宮さんはとても明るく、笑顔が素敵な方でした。私はインタビュー経験がなかったためとても緊張しましたが、雨宮さんは一人ひとりの質問に明るく答えて下さいました。

雨宮さんの講演やインタビューを通して自分自身の働くことに対しての見方に変化が生じたように感じます。それは、働くことは必要であるが、就職先がないことや過重労働になることに当事者である私たちの責任はないことを認識できたのが大きかったと思います。また、生きるために就労しているのに、就労がその人の心身の健康を壊すことに繋がっているという矛盾にも気付かされました。

雨宮さんの活動を一人でも多くの人に知ってもらいたいです。そして、社会で起きていることを他人事だと思わず、もっと互いに支えながら生きていける優しい社会を皆で作っていきべきだと感じました。(I・S)

大学院卒業後夢実現のため、市内某研究所の非正規職員に就職した私、今になって、正社員と非正規雇用の違いを身にしみて実感しているところでした。雨宮さんの講演の中で、正社員でもひどい扱いを受けている方もいるとのことで、一部の人を除いて国民のほとんどは「プレカリアート」と聞き驚きました。一人ひとりが法律などの知識をつけ、不当なものに対して“No!”と言わないと、吸い取るだけ吸い取られてしまう世の中なのだと実感しました。

今回私は、雨宮さんが日頃とてもハードな問題に直面しても、ゴスロリ衣装に身を包み、果敢に立ち向かっている姿をみて、そのパワーはどこからくるのか質問させて頂きました。雨宮さん曰く「結局は自分のためなんです」とのお答え。やはり自分が満たされていないと他の人を救うことができないし、苦しい時だからこそ「楽しい」といった感覚は大切なんだと思いました。苦しみを抱える人の気持ちに寄り添いながら生きる雨宮さんからいろんなことを教えて頂きました。(A・I)

雨宮さんへのインタビューを終えて



雨宮処凛さんについては、新聞などで活動を知り、世代の近い女性が社会に対して面白いアプローチをしているなど興味を持ちました。当日の講演の中で、生きる希望を失っている若い人たちにどんな言葉をかけますかとの質問に「迷惑をかけてもいい、と伝えたい」と答えていらしたことが印象に残っています。「迷惑をかけあいながら生きていくのが普通で健全な生き方だと思う」という言葉は、そのまま、人間関係の回路を閉じてしまわずに繋がりを続けることで、状況を変えて行くことができるというメッセージに思えました。

劣悪な条件で酷使されている労働者が、その実態を家族や周りの人にも相談できないなど、親しい間柄でも情報の共有が成されていない現実があるといえます。不況だから仕方がないと諦めず、声を上げることで雇用側の違法性が明るみに出たり、解決できる糸口に繋がることもあるということを、もっと世の中に広めて行く必要があると感じました。(H・R)

主催者雑感 今回のイベントに主催者として関わり、9条の会つくばの皆さんにご協力頂きとても感謝しています。今回の実行委メンバーは私も含め30代~40代で、多くが日雇いや派遣、非正規労働に従事しており、2年前からつくばで独自に手作りのメーデーを実施してきました。「プレカリアート」と呼ばれる不安定な労働・生活を強いられている人達の声を発信したい、私達の活動を広げたいと思い、雨宮さんをお招きしました。

対談役を引き受けて下さった長田さんのおかげで、雨宮さんの考えやプレカリアートの運動を分りやすく伝えることができ、地域市民の理解と関心を高めることにつながられたと思います。茨城の派遣労働の体験を語る崎山さんは独特の口調で、主役の雨宮さんを時に上回るインパクトがありました。

バブル世代の私は就職活動期に「フツーじゃつまらない」と感じ模索しました。ロスジェネ(就職氷河期)世代以降は「普通の暮らし」に憧れ苦闘しています。自己責任論を内面化してしまうと、「生きづらさ」を感じるほど「死」へと向かいます。雨宮さんが「生」を全肯定し、迷惑をかけてもよいと思える社会、助け(られ)合う関係作りを「自分自身のためにやっている」という言葉に、私に関わる障害者運動と同じものを感じ胸に入ってきました。

9条の会主催であればさらに多くの来場を見込めたでしょうが、次世代へつなぐという意味では確かな手応えを感じる企画だったと思います。(松岡功二)





国民の力が歴史を動かす

——対米従属に国民怒り

伊藤 清子（憲法9条の会つくば・代表）

チュニジアに続いてエジプトでも、国民の平和的な反政府デモが強権的な長期政権を倒壊させました。アメリカの支援を受けて君臨してきたムバラク大統領を、「国民の力」によって退陣させるという「市民革命」がなされたのです。まさに“国民の力が歴史を動かす！”を実感させてくれました。

エジプトの「国民の力」の原動力は、ムバラク独裁政権下で経済的に苦しめられ抑圧されてきた民衆の不満であり、怒りです。ムバラク政権がアメリカからの絶大な軍事・経済援助（約1300億円）と引き換えに、エジプトをアメリカのアジア・中東地域での戦略拠点として明け渡すなどの「対米従属」への怒りでもあるといわれています。その怒りが爆発し、軍の力（武力）でさえ鎮圧できない大きなエネルギーへと発展したのです。そして今、同じように抑圧と貧困にあえぐアフリカ・中東の国々に、国民の自由と民主主義を求める運動が大きくなうねりとなって広がっています。

では、私たちの日本はどうでしょうか。日本とアメリカとの関係は、戦後の日米安保体制の下で「対米従属」が絶対視されています。政権交代があっても、「日米同盟」という名のもとで「対米従属政策」は当然のように深化させられてきています。沖縄普天間基地問題を見ても、「攻撃部隊」であることが明らかな米海兵隊を海外からの攻撃に対する「抑止力」として「方便」を使ってまで、アメリカの言いなりに存続させようとしています。

また「平成の開国」として参加しようとしている「TPP 協定（環太平洋連携協定）」も、実際には貿易力の強さから見て対アメリカとの貿易協定といわれています。例外なき関税の撤廃によりアメリカなどから安い農産物や食料が流れ込み、日本の農業を荒廃させます。また製造業やサービス業、労働市場など広い分野も対象となり、行きつく先は「開国」でなく「壊国」です。さらには軍事面でもアメリカの言いなりに軍備を増強し、邪魔な「憲法9条」のなし崩し・改悪へと突き進む可能性があります。

今、日本でも、このように対米従属を深め継続するのが正しいのか、考えるときが来ているのではないのでしょうか。対米従属の日米関係の矛盾を正すよう国民が力を発揮した時にこそ、歴史は動きます。そのことをエジプト国民が私たちに気づかせてくれました。“国民の力が歴史を動かす”のです。

「憲法9条の会つくば」の活動から

- ◆賛同人 2011年3月10日現在
総数 820名（市内611名）
- ◆9条署名 3月9日現在 9968筆

成人の日署名に参加して

沖縄に住む20歳になる三男が帰ってきて、つくば市の1月10日の成人式に出席すると言うので、意を決して「憲法9条の会つくば」の活動に参加しました。

選挙権を新たに持つ20歳。自分たちがいる日本の平和について改めて考えてほしい。選挙権の行使に、平和、福祉や教育など生活全般を守るためにも憲法の大切さを知ってほしい。そして、成人する若者たちにおめでとうと言いたい。こんな気持ちで、署名宣伝を行いました。（M・K）



定例署名行動でのこと

2月の第1日曜日、アルス図書館から出てきた二人の女子中学生。チラシの憲法9条を説明しながら、尖閣諸島問題など平和的な外交交渉で解決するのが日本



会ではつくば市有権者15万人の過半数獲得を目標に「憲法9条を変えさせない」署名に取り組んでいます。定例署名は毎月第1日曜日に12:00～アルス前で、9の日署名は毎月9日に西武2F広場前で行なっています。

の道と話すとなんか納得して署名のペンを執ってくれたが、住所は書かなくてよいですか？ 請願署名には自筆の姓名・住所の記載が必要…そういう子たちが多いけどどうしてと尋ねると、個人情報の保護、両親や周りに迷惑をかけるかも知れないから成人したらする、とのことでした。なるほどとその気持ちを尊重して、チラシを読んでね、と別れました。（N・H）

行動予定



- 4月3日(日) 定例署名行動 11:30 集合
アルス前 12:00～13:00
- 4月9日(土) 9の日行動 11:00～12:00
西武2階外広場
- 4月15日(金) 事務局会 19:00～21:00
手代木公民館2階中会議室
- 5月15日(日) 定例会 10:00～12:30
手代木公民館和室

60年代安保の頃

初雪舞い散る1月16日、「安保破棄中央実行委員会」の東森英男さんを講師に迎えて、研究所・大学9条の会による講演と対話のつどいが開催されました。テーマは「日米軍事同盟と憲法9条の価値」という講演と、活発な討議で元気の出るひと時を過ごしました。

「日米安全保障条約」1960年の現行安保への改定時のいわゆる60年安保闘争の頃は、仕事が終わればそのまま組合旗やプラカードをかついで国会へ出かけたものでした。また、職場では青年部による学習会などくり返し行われていました。足腰の元気だった青春のひとこまでした。50年ぶりに改めて条約の全文の解説をいただき、現在の状況と重ねてみることで、いろいろ考えさせられました。

米軍基地からの解放

沖縄をはじめ全国の米軍基地の状況を見ると、安保条約は私たち日本国民を守ってくれているのでしょうか。米軍による事件・事故で、2006年までに日本人の死者数は1201人にもものぼります。仮想敵国といわれる国々から受けた被害はいかほどのも

のだったのでしょうか。被害者や遺族の方々にとって、殺したやつが敵と考えるのが道理です。そんな米軍に基地を提供し、ふんだんに思いやり予算をつけるなんてとんでもない話です。フィリピンのスービック米軍基地などは通告により撤去され、市民は平和を取り戻しました。沖縄でも、既に返還された北谷町のバンビー飛行場跡はショッピングセンターが立ち並び、雇用は基地時代の23倍にも増え、多くの買い物客で賑わう商店街となっています。基地が返還されると豊かな街づくりができる見本です。

世界との本当の友好関係を

軍事同盟はやめましょう。アメリカやアジアの国々との本当の友好関係を創り上げるために。そして、貧困にあえぐ国民の生活向上のために。安保条約第十条の最後はこう結ばれています。「この条約が十年間効力を存続した後は、いずれの締約国も、他方の締約国に対しこの条約を終了させる意志を通告することができ、その場合には、この条約は、そのような通告が行われた後一年で終了する。」

憲法9条の旗を掲げて、60年安保のような闘いを…改めて考えさせられました。

カンパのご報告とお礼

前号の「結」にカンパのお願いを同封させて頂いたところ、3月10日現在230,420円のカンパをお寄せ頂きました。世話人一同、大変励まされております。この誌上をお借りしてご報告し、ご協力頂いた賛同人の皆様には厚く御礼申し上げます。「憲法9条の会つくば」の活動を発展させるため、今後ともご支援、ご協力よろしくお願い致します。



▼平和とアートの旅 第1回▲



2011年4月23日（土）
いわむらかずお絵本の丘美術館見学ツアー
おさそいチラシができました！

概略は1月のニュースでお知らせしましたが、出発時間、行程などの詳しい情報は、今月同封のA5チラシ両面をご覧ください。ミニバスといっても中型バスですが、定員が35名ほどなので、参加ご希望の方は早めに申し込み下さい。定員になり次第締め切ります。また車中で過ごす時間が片道2時間余になります。車中での楽しみ企画なども考えていますが、お子さんの年齢や状態をお考えの上、お申し込みください。（穂積）



▼文芸9条ほつとタイム

川柳もどき3句

つる・しがき

目出度さを 探す春	世界 の 平和	初詣 で	本免許
天眼鏡で		仮免許	オバマがくれた

絵手紙

**「荃崎9条の会」設立5周年記念集会
延期のお知らせ**

突然の巨大地震が東日本を襲い、1万人を越す死者・行方不明者という被害の中、今なお40数万人の方が避難生活を送っています。このような状況の下、3月27日に計画していました「荃崎9条の会」記念集会を延期することにしましたので、どうぞご理解のほどよろしくお願い致します。
連絡先：Tel029-876-1545（野口）

公民館の改革を考える

野崎 浩司（9条の会つくば・事務局）

昨年12月の市議会で行くば市地域交流センター条例が採択されました。これによりつくば市公民館条例は廃止され公民館が地域交流センターに変わります。

公民館は社会教育法に基づき、市民の自発的な活動の拠点を提供する役割があったと思います。市内17公民館のうち、特に春日・竹園・手代木・並木・二の宮・小野川公民館は利用件数が増加しています。地域交流センターは地方自治法の「公の施設」として行政が管理・運営の主体となります。

地域交流センターになってまず困ることは、特定の団体や個人以外のその他大勢の利用が有料となることです。今ひとつ困ることは、行政や行政と連携する団体の企画・催しがおそらく急増かつ優先され、今でさえ競合している予約がますますとりにくくなると予想されます。行政が一生懸命やりますと言えば言うほど利用しにくくなると思えてしまいます。

センターになると困ることが生じるのではないかと心配して、市民有志の会合が1月26日と2月12日に開かれました。後者の会合ではつくば市生涯学習課職員3名の方に参加していただき、4月施行を前の運営規則の作成に市民要望を取り入れる方策を求めましたが入れられませんでした。施設運営についての利用者の意見は、4月以降に設立を促進するとする利用者協議会に出してほしいと行政は説明しています。利用者協議会がどれだけ市民の意見を

反映出来るか、行政主導の下で容易でないと推測されます。

ところで地域交流センターとはどのような施設なのでしょう。「つくば市地域交流センター基本計画」に述べられた「新たな条例の考え方」を私なりに述べると、地域において少子化・高齢化による世代間格差や環境問題など行政が取り組むべき課題に対して、従来の社会教育法の下での「公民館」のままでは市民のニーズに応えることが出来ないため、行政が直接運営できる地方自治法における「公の施設」（地域交流センター）でニーズに応えたい、ということのようです。

これらの課題は社会教育法に含まれていると私は考えます。しかしながら地域社会環境の急速な変化に行政が対応しなければならないという「行政ニーズ」があることは間違いありません。その施策の場として公民館をなくして地域交流センターで行うというには必ずしも同意できません。余りに行政ニーズの事業が前面に置かれています。市民が自発的に活動する場が縮小されては困る、自発的活動を奨励するなら有料化しないで欲しいと声を挙げるのは当然だと思います。

社会教育法は公民館における市民の自発的な活動を保証し、行政の介入を制限する法律です。地域交流センターの運営が当面の焦点ですが、もとの公民館に戻せと多くの市民が声をあげ手をつなげば、変えることも可能ではないでしょうか。

*つくば市のホームページで「つくば市地域交流センター基本計画」（仮称）を見ることができます。

インフォメーション

◇テレビを語る会いばらき—紙芝居「ハンナのかぼん」

日時：3月26日（土）14:00～

場所：つくば市並木公民館2階大会議室

内容：「ハンナのかぼん」の紙芝居（語り大西陽子さん）、ビデオ上映とおしゃべり会

連絡先：TEL/Fax029-823-3484（関谷）

◇「基礎から学ぶ原発問題」学習会

福島原発事故 緊急報告会

日時：3月27日（日）14:00～16:00

講師：原子力資料情報室 上澤千尋氏

場所：県南生涯学習センター（土浦駅大和町9-1 土浦駅西口イトーヨーカドー5階）

第3回学習会「地球温暖化防止と原子力発電に代わる代替エネルギー」

講師：元山形大学教授 長坂慎一郎氏（物理学）

日時：5月22日（日）14:00～16:00

場所：いばらきコープ土浦店2階コミュニティルーム

（土浦市小松1-4-27 TEL029-825-0231）参加費：無料

主催：核戦争を防止し平和を求める茨城医療人の会

連絡先：TEL029-823-7930 Fax029-822-1341

◇TPP(環太平洋連携協定)学習講演会

日時：4月9日（土）14:00～16:00

場所：水戸市民会館大会議室（水戸市中央1-4-1）

内容：「TPP 参加は『開国』か？日本農業と国民生活への影響を考える」鈴木宣弘先生（東京大学大学院教授）

連絡先：食健連TEL029-292-8732

◇2011年憲法フェスティバル

日時：5月3日

場所：水戸・はなみずき公園

内容：「前泊さんと語ろう 沖縄・平和・安保」前泊博盛さん（琉球新報社論説委員長）

9条の会交流会、沖縄戦争展、TPPを考えるなど

連絡先：憲法フェスティバル実行委員会 TEL029-231-4555（水戸翔合同法律事務所内）